

救命の連鎖：救命サポーター林さん一家の活躍 心停止で救われた人が他人の心停止を救った！

「救命の連鎖(Chain of Survival)」という言葉がある。救命には現場市民の初期対応に加え、呼ばれた救急隊員による処置及び搬送、そして病院での専門的治療という一連の繋がりが欠かせない。なかでも最初の初期対応である 119 番通報、心肺蘇生、AED の搬送といった市民同士の連鎖が救命の鍵となる。このチームワークが「救命の連鎖」の元々の意味であるが、今回紹介する林さんのケースが特異なのは、心停止で助けられた人が、今度は反対に心停止になった人を助ける側になったという極めて稀な「救命の連鎖」であったことである。夫であり父である大黒柱を突然の心停止で危うく失いかけた家族の中で芽生えた危機感の連鎖反応も、この2度目の救命に貢献した。林家の1人1人が救命サポーターとなり、まさかの2度目にその能力を精一杯発揮したのである。快挙の詳細を日本 AED 財団事務所で三田村秀雄理事長が伺った。



林一家のメンバー構成

父	正隆 まさたか	(50)	小学校副校長
母	美弘 みひろ	(37)	保育園副園長
長女	陽月 ひづき	(10)	小学4年生
長男	維月 いつき	(3)	

2022年10月に第3子が無事誕生しました

次女	月穂 つきは	(0)	
----	--------	-----	--

二人目を妊娠中に留守電「ご主人が心停止しました！」

三田村 (M) まずは4年前に一家に起こったことをお話しいただけますか。

母 夫は何年か前から毎年開催されるハーフマラソンに参加していて、その日、2018年11月25日朝、元気に家を出て行きました。当日は日曜日でしたが私は仕事があったので、娘をおばあちゃんの家で預けてから職場に向かいました。行く途中の電車の中で電話が何度も鳴って、でも車内だったので後で出ればいくらいに思っていました。駅に着いてから留守電を聞いたら、それがなんと消防署からの電話だったんです。聞き返したら夫が心停止で運ばれた。「AEDを2回使いました、蘇生してます」と言うんですけど、生きてるんだか死んでるんだかその意味が入ってこなくて。とにかく心停止ということしか頭に入ってこなくて、何も分からない状況で病院に向かいました。

父 そのハーフマラソン会場で見っていた人に後から聞くと、自分はゴールしてしばらくしたら胸をおさ

えて崩れ落ちるように倒れたそうです。

M その時は誰が救命処置をしてくれたんですか。

母 夫が倒れた時はちょうどゴールで待機していた医者が全部処置してくださったので良かったのですが、AEDがそばになくて、学生ボランティアの方がゴールの競技場に備え付けのものを持ってきてくれたようでした。



M 奥様はとにかく病院に駆け込んだ。

母 そうです。でも、意識が朦朧としているというし、ICU(集中治療室)にいたのですぐには会えないし。助かったのは良かったのですが、その時に言われたんです。

麻痺が残るんじゃないとか。結構な時間止まってたみたいなんです。救急車に乗るまでに7分くらいかかったみたいです。調べたら脳に血液が行かない状態が4分を越えると障害が残ると聞いて。

M それは胸骨圧迫をしていない場合ですけど、ど

っちにしても心配ですよ。

母 実はそのとき、息子の維月（いつき）がお腹にいたんです。4ヶ月くらいだったと思いますが、「このまま1人で産むのかな」と思ったり。「助かってもし麻痺が残ったら子どもたちと夫と、両方の面倒を見ないといけない」とか。

M すごいプレッシャーですね。そのとき陽月（ひづき）ちゃんはいくつだったのですか？

母 年長の時だから6歳だったと思います。おばあちゃんのところにそのままいてもらったんですが、娘にショックを与えるのもいけないし、まだ理解もできないだろうから「ちょっとお母さんお仕事で忙しい」とか言って、しばらく娘には父親のことを伝えなかったんです。

M 意識が戻ったのはどのくらい経ってからですか。

母 3日目かな？救急車内で目が覚めたらしいんですけど、暴れちゃうから落ち着かせる薬をずっと打たれていた。私が出た時も意識が戻りかけると暴れるからまた私は外に出されて。全身を冷やされる治療（低体温療法）も受けたみたいでしたが、そのあと熱がちょっと上がって肺炎を起こしたりして。しかも先生には意識は戻ってもそのあと麻痺が出てくるとか、いろいろな可能性があるけれど、今は何も言えないって言われて、本当にどうなるかなって、それが怖くて。

M 意識が戻ってきたとき、ご主人は奥様にどんな言葉をかけたのですか。

母 第一声は「ゴールした？」です。「タイムも良かったはずなんだけど」と言いながら。ゴールしてるよって言うと、また暴れだしてまた落ち着かせる薬を打たれて寝るみたいな。

M そのことしか頭になくてそこで記憶が途切れていたんですね。仕方ないことですが、それは奥様も大変でしたね。

娘さんにはいつ本当のことを伝えたのですか。

母 2週間くらいして一般病棟に移れるとなった時に伝えたと思います。ただ、病院にはまだ行けないよ、というかたちで。

M ひづきちゃんはお父さんが倒れたときのことをあまり覚えていないんじゃないかな。

長女 覚えているよ。病院に一回行ったもん。

母 そうですね。もうちょっとで退院、というくらいの時です。

M 結局何日くらい入院していましたか。

母 3週間かな？その間に今後に備えてICD（埋め込み型の全自動除細動器）を胸に埋め込む手術を受けました。最初は嫌がっていましたが、いつもAEDを持ち歩いているようなものですよ。すごく安心です。

心停止からの復帰が家族を変えた

M とにかく助かって良かった。後遺症も残らずに元気になられてホッとしたことと想像します。

ところでお二人はそれまでに救命講習は受けたことはありましたか。

父 自分はこの仕事柄、そのことがある前から毎年研修を受けていたので知ってはいました。水泳の授業が始まる前に必ず1回やることになっていて。

母 私の働いている保育園でも2~3年に1回救命救急の講習を受けるんですけど、それプラス年に2回はAEDの防災訓練みたいなのをやっています。

M ご主人のことがあってから、その辺は何か変わりましたか。

母 それはもう必死でやるようになりました。夫が倒れたすぐ後、消防署で講習を受けたんですけど人一倍必死にやりました。職場内でこういうことがあったというのは皆知ってるので、「本当にAEDで助かるから皆やった方がいいよ」って伝えました。

M お父さんが元気に退院してきて、ひづきちゃんに何か変化はありました。

母 出かける先でAEDを見た時に「これでお父さんが助かったんだよ」くらいの会話を娘としていた。一応夫はICDという機械を入れて退院したんですけど、こっちもまだその機械がいざというときにどれだけ作動するのかもわからないし、いつまた倒れてしまうかも、という不安もあったので、娘とAEDを確認しようという意識もありました。もし倒れてICDが作動しなかったら「ここにあるんだね」とか「あれがAEDで、お父さん倒れたら使うかもしれないよ」みたいな日常会話的な感じで伝えていた。

M それは記憶に残りそうですね。

母 AEDって語呂が良くて、マークもすぐ目に入るんじゃないですか。なのでこのマークを見ると娘が

「AED！」って言って、その横でまだ幼かったので可愛いポーズをとったりしていたのを、写真で撮り溜めしていたんです。あと保育園だとかで、リカちゃんとか、シルバニアとかやっていると、必ず途中で倒れるんですよ。「リカちゃんが倒れた！マッサージ！マッサージ！」とか、「AED 持ってきてください！」とか言って。今、息子もそうですね。ぬいぐるみとか倒れると「心臓マッサージお願いします！」とか言って胸を押ししたり。

M 本当ですか？すごいですね。

母 その翌年に娘が小学校に入学したのですが、小学校1年で自由研究というのがあったんです。これまで AED の写真を何枚も撮っていたのがあったので、それに追加する形で夏休みに出かけた先で、ここにあったね、と言っては写真を増やして、それを最後にまとめたんです。

父 こっちもだんだんと勘がついてくるんで、交番があったらそこにあるとか、駅があったらあるとか、銀行だったらあるとか、プールの近くにはあるんだな、とか大体パターンが分かってきました。そうして最後に、じゃあノートに写真貼ろうか、という感じで。

母 前の保育園にいた時に、もし園児が倒れた時にどこが1番近いかな、と思ってサイトで AED マップを調べたことがあるんですけど、自宅の周りとかを調べたことはなかったので自分たちにとってもこういうのは役に立ちそうだと思います。

M それは素晴らしい自由研究になりましたね。



家に来ていた作業員のおじさんが倒れた

M そして心停止から4年目の今年、2022年の6月4日、土曜日、ご自宅で思いもよらなかったことが起きた。

父 自宅は3階建てなんですけど、2階にあるキッチンのリフォームをお願いしていて、その日は朝9

時から担当の人が来て水道管まわりの作業をしていました。一通りの作業が夕方5時頃に終わって、いざ帰ろうというときでした。「終わりました」と立って喋っていたんですけど、突然胸を推さえて、そばの脚立に捉まりながらそのまま崩れるみたいに床に倒れてしまいました。

M それは驚かれたでしょう。一体何が起きたと思いましたか。

父 暑い日だったので、最初は熱中症かなって思いました。そうしたら次は“引きつける”というか、手が“気を付け”みたいな感じで硬直して見えたので、もしかして“てんかん”で痙攣しているのかな、とも思いました。名前がわからなかったので、「おじさんどうしたの？」と声を掛けてみたんですけど反応がなくて。一応手首で脈をとってみたんですけど、ないなと思って、少し胸を押ししたんです。息はよくわからなかったのですが、ちょっと怖くなってきて妻を呼びました。

M 奥様はその時はどこにいたのですか。

母 庭で草むしりをしたり、娘が自転車に空気を入れるのを一緒に手伝ったりしていたところでした。「おじさんが倒れたんだけど」と夫に呼ばれて。

M ひづきちゃんはお母さんと一緒に上がって行ったの？

長女 お母さんが先に行ったから、私が勝手に「どうしたお母さん」って見に行ったの。

母 急いで2階に上がって行くとその人が倒れていて、その時は私も熱中症かなと思ったんですけど、目を見開いていました。そのうちいびきみたいに「ゴー、ゴー」と言い出して。

長女 最初テレビの音だと思ったの。でもライオンとか動物が鳴いてるみたいな音。

父 これが以前聞いたことのある死戦期呼吸かな、と思いました。研修ではそれがあっても蘇生をやめちゃいけないと教わったことを思い出しました。

娘が上がってきたときに、ちょうどリビングで寝ていた3歳の息子が泣いて起きてきたので、娘に3階に連れて行かせました。

母 もし助からなかったら、この子たちにその記憶が残ってしまうのも心配で。

M 奥様はその後どうされたんですか。

母 いびきは危ないっていうのを何かで聞いた気がして、すぐ馬乗りになって手を口のところに当てて。外れそうだった入れ歯をそのままだと危ないから手で取りだして、呼吸を確かめました。でも息をしていなかったの、私が馬乗りのまま胸を押したんです。「もうだめだ」と思って、夫に「救急車を呼んで」と言いました。

父 それで私が 119 番したのですが、自分とはにかく落ち着こう、落ち着こうって考えながら話そうとしているのが、妻にモタモタしてるって思われたみたいで、途中で交代しました。

母 私はすぐ行動してしまう方で、夫が慌てていて住所を言えないかもしれないと思ったのと、私が身重だったので、やっぱり押してる間もちょっと気になったんです。それに以前、救命講習を受けた時に力が足りなくてしっかり押せていないということがあったので替わってもらいました。私が電話で一通り状況と住所を伝えたら、何か指示してくれると思ってたんですけど「すぐ行きます」と言って電話が切れてしまいました。

M 本当ですか。それはちょっと残念でしたね。

AED を取りに行こう

母 そのあとすぐに「あ、AED！」って、本当 2 人同時くらいに「AED を取りに行こう」ってなりました。でも最初、場所がわからなくて。コンビニにあるかと思いながら階段を降りてきたんですけど、そこで「ないよ！」と気づいたんです。娘が自由研究で AED の場所調べをしたときに、コンビニって意外とないねって 3 人で言っていたのを思い出しました。調べたときは銀行が 1 番多かったのですが、駅前なのでちょっと遠いのと、この日は土曜日の 5 時頃で、夕方 3 時になったら閉まっちゃうねって言ったのを思い出しました。幼稚園も近くにあったんですけど、そこも土曜で開いていない。それで近くの病院に行こうかと迷った時に、「あ、そうだとマンションにあったんだ」と思い出しました。

M そのマンションに AED があるのはお母さんも覚えていたということですか。

母 覚えていました。ここで娘の自由研究で AED の写真を撮ったなっていうのを思い出したんです。息子の保育園の送り迎えで毎日通る道なので良く知っ

ていました。マンションなら直線で行けるから近い感覚がしました。24 時間開いているし。

急いでいたので靴じゃなく“つっかけ”を履いて家を出たんですけど、すごく走りづらいんですよね。転んだら私も嫌なので途中で脱いで両手に持って走りました。

M 脱いでしまったんですか。裸足では石とかあって痛いでしょう。

母 そのときは何も感じなかったです。足は大丈夫でしたけど、そういえばお腹が痛いっていうか重かったです。

M そっちも心配ですよ。本当に必死だったんですね。

マンションまでは距離的にはどのくらいでしたか。

母 歩くと 2 分の距離なので 160m くらい。往復で 320m。

M そこを片道 1 分くらいで走ったわけですね。

AED は外から見える位置にあったのですか。

母 見えるんですけど、実はオートロックの中で。どうしようと思ったら、ちょうど住人のご夫婦が出入りしようとしていました。管理人さんがいるか聞いたら、「いないですけど、どうしましたか？」って言われたので、「AED を取らせてもらいたいです」と言ったら、ロックを開けて取ってくれました。AED の収納箱を開けたらピーピーピー鳴りましたけど閉めるとすぐ止まって。AED を渡してくれたので、そのまま AED を片手に、サンダルを反対の手に持って裸足で走って戻りました。

M それは大変でしたね。すごいなあ。その時は妊娠何ヶ月だったのですか。

母 6 ヶ月でした。

M 一応は安定期と言えるかもしれないけど、走るのが心配じゃなかったですか。

母 それは二の次というか、気にする余裕がなかったです。

M そうですか。で、AED を持って帰った。

父 家に持って帰って AED を開いたら最初「小児モードです」と言われたんです。

母 そうそう。で、すぐスイッチをカチャって切り替えて。自分の勤めている保育園にも同じような AED があって小児用モードが使えるのは保育園児

ただだということは知っていました。

M それはよかったですね。ちなみに今は小児用という間違えやすいので、未就学児用という表現に変わりつつあります。

それで電極を貼ったのはどちらですか。

母 一緒に。本当は、1 人はその間も胸骨圧迫をやっていなければいけないんですけど、2 人で確認しながら「じゃあこっち貼ります」「こっち貼ります」って。

M うまく貼れましたか？

父 最初は自分も焦っていたので、パッドを貼ろうとして、くっつかないと思ったら、シートから剥がしてなくて。あ、これ剥がすんだって気づいて剥がして貼って、反対側を妻が貼って。

M 電気ショックのボタンを押したのはどちら？

母 私です。バンって身体が跳ね上がるようになりました。聞いてはいましたが、本当にそうなるんだと驚きました。それとこれと同じことが夫にもあったんだなと思い出しました。

父 電気ショックしたあと、助かって欲しいと思ってるから、意識が戻ったかと思って一瞬手が止まっちゃって、「おじさん、おじさん」って呼びかけて、いや違う違うってなって。 顔色は真っ青っていうよりも土気色でした。

M つい、いい方に期待してしまうんでしょうね。電気ショックは 1 回だけですか。

父 1 回だけです。ちょうどその時に救急隊のサイレンが聞こえたんです。

長女が救急隊を誘導

M 電話をしてから何分くらいで来たのですか。

父 あとで通報の時刻と到着の時刻から計算したら、5 分くらいで着いたみたいです。来るのは相当早かったです。消防署が近いのと、その頃はちょうどコロナも収まっていた時期だったのが良かったのかもしれません。

それで娘を呼んで、「救急車誘導してきて」と頼みました。家が大通りからちょっと路地に入ったところにあるので救急車が分かりにくいだろうと思って。

M ひづきちゃんは 3 階にいたんですよね。その時いつきくんは？

長男 上にひとりでしたよ。

上に来てほしかったな～。

M それで、ひづきちゃんが 1 階まで降りて、その路地のところに行ったら、救急車が来たの？

長女 消防車だった。なんで消防車なんだろうって。救急車呼んだのに消防車が来たーって。

M そういうときには救急車か消防車か、一刻を争うので、とにかく早く来られる方が先に来るものなんです。

父 3 人くらいで上がってきて、首のあたりで脈を診たりしていました。意識はまだ戻っていなかったけれど、消防の反応が「バタバタ」っていう感じじゃなくて落ち着いていたので自分はいい方に考えていました。

母 「これは心拍再開してるかな？」みたいなことを言って胸骨圧迫はしなかった。「電気ショックは 1 回ですか？」「1 回です」「その後の案内はありましたか？」「次の音声案内を聞かなきゃなと思ってたけど、2 回目のショックっていう指示は流れてないです」という会話がありました。

M 普通は 1 回目のあと、2 分経ってからショックがまた必要か不要かを教えてくれるんですけどね。

母 そうなんですね。じゃあ、それ待ちだったのかな？

M 1 回目のショックのあと 2 分以内に救急隊が到着したのかもしれませんが。結局ショックのあとは胸骨圧迫をしていないということですね。本当は間髪を入れずにまた始めないといけません、それまでの処置が素早く効果的だったおかげで回復して良かったです。

父 ショックのあとも、自分の胸の機械 (ICD) が気になっちゃって。

母 怖くて近づけないんだよね。

M 気になりますよね。患者の身体に直接触っていると AED で電気ショックを加えるときに感電する危険があると言われますが、ICD が自分の胸に入っていると、ICD の方も故障したり誤作動したりする可能性がないとはいえません。ただ AED は必ず電気ショックの前に離れるように音声があるので、そのときまでは胸骨圧迫を続けていて大丈夫です。

父 ちょうど救急隊が上がってきてよかったーと思って。弱気なんで。

M いえいえ、そんなことはありません。当然、気になると思います。それに、それまで5分近くほとんど一人で胸骨圧迫をしていたわけですから相当疲れていますよね。普通の人は1、2分で疲れてしまいます。でもそれがしっかりできていたので1回のショックで戻ったのだと思います。すごいことです。

その後、その人の体を固定して2階から階段を担架で降りて運んで行ったわけですね。消防と救急が一緒になって。

母 青い人とオレンジの人が混ざってた。なんかその後も警察とか続々と上がってきて事情聴取っていうか、「どんな状況で倒れたんですか」っていうのが結構長く続いたんですよ。

M 事件性がないかの確認ですね。流れとしては仕方ないことですけど。

倒れた人はその後どうになりましたか。

母 その日の夜7時くらいかな。残されていた AED をあとから家に取りに来た消防の方に聞いたら、「とりあえず今すぐどうこうなるっていうことはなさそうです」ということでした。私もなんかどっと疲れてしまっただけ。

長女 私も疲れて、その日は夕食も食べないで寝ちゃった。

M 緊張していたんだね。

母 その方が退院する前にお母様から「意識戻りました、会話もできます」という電話があって、その気持ち、自分もわかるので良かったですねって。退院された後にはご本人からもお礼の電話がありました。

なぜ救命に成功したのか

M 今回の出来事では救急隊の到着時にはもうかなり回復していた、ということに驚きました。お話を伺うとものすごく手際よく、無駄なく動いていました。確かにお二人とも救命講習を受けていた、死戦期呼吸も知っている、小児用モードのことも知っている、というのは素晴らしいと思いました。あとひびきちゃんが救急隊員を誘導する、という活躍もありました。でもそれだけでないプラス α があったように思いました。それが最初のご主人の心停止体験から来ているのではないのでしょうか。

母 ここまで AED が大事だとか、ここまで素人が

使えるとか、以前だったら思わなかった。

父 一つ言えるのは、救命処置をしている最中、お互いに時間のことがすごく頭にあったことかと思えます。時間が遅れると助かっても麻痺が残るかもしれない、という経験をしていたことが大きいように感じます。

M 時間、それも秒を意識する、ということが救命では非常に大事です。

あと今回お話を伺って印象的だったのは、奥様が二度の心停止の時とも、身重だったということです。最初のときは、そこでご主人が亡くなりでもしたら大変、助かって後遺症が残っても大変、という逼迫した事態を経験されただけに、これをもう繰り返したくないという思い、だから救命講習にもより真剣になり、街中の AED も気になるようになった、というのがあるのでは、と推測しました。そして二回目の心停止遭遇の場面では、身重でありながらも急がなくては、と裸足で走った、これもすごいことです。

母 それも時間のことを意識していたからだと思えます。あと、これを言うと変に聞こえるかもしれませんが、とにかく「うちで死なせちゃだめだ、うちで死なないでほしい」と思って必死でした。それと見ていた子どもへの影響も心配していたので、助かって本当に良かったと思いました。

M 子どもへの影響という意味では、お父様の心停止が4年前にあって、むしろそれがいい方向に働いて、ひびきちゃんの AED マップの作成につながった。自由研究で調べた中にマンションも含まれていたのですよね。その自由研究をやらなかったら近くのマンションにあることを知らなかったということですか。

父・母 知らない知らない。



母 娘が AED マップを作らなければ、マンションは思いつかなかった。

M それを思いつかなかったら、時間的に間に合わなかったかもしれないですよ。

母 もう救急車を待つしかなかった。



M これは何と言ってもひづきちゃんの功績ですね。これもお父様のことがあって、AEDのおかげ、と思うようになり、リカちゃん人形に AED を登場させたり、街中で AED を見つけると宝物を見つけたように喜んでいて、それが可愛くて写真にとっていたら、自由研究ができた。だからこそお母さんにとっても記憶に残っていた。すごい救命の連鎖ですね。

一般市民へのメッセージ

M 市民にだって、いや、市民だからこそ救命のサポートができる、と我々は考えているのですが、それをどう促していくべきか、いろいろと模索しているところです。ひづきちゃんの作った AED マップのようなものがあると、普段でも自宅の周辺や通勤途中の AED 設置場所を知るのに役立つわけですが、日本 AED 財団でも AED N@VI というマップを一般の人に協力していただきながら作っています。街中に AED を見ることは多いと思いますが、それが多くの人の頭に残らないのはそこに能動的な関与が少ないからだと思っています。林さんたちも経験されたように、単に場所がわかるだけでなく、自分たちが実際に見に行き、その建物のどの辺に設置されているのか、夜間や休日でもアクセスできるのか、といった具体的な詳細を知ることも重要で、そういった情報も盛り込んで全国で活用していこうと考えているので、是非こういった活動にもご協力をお願いしたいと思っています。

最後に救命を実践し、快挙を遂げた体験者として何かアドバイスがあったらお願いします。

母 待つとか、人をあてにする、というのはダメですね。「お医者様いますか？」とか言っている場合じゃないですよ。お医者様じゃなくてもいい。というか反対に「お医者さんいませんか？」って言われたら自分なんか出て行けなくなってしまいます。

M 確かに、それはあるかもしれませんね。まず自分が出て行って、その上で「手を貸してください」

と言って人を巻き込むとか。

母 とにかく簡単だということをもっと知って欲しいと思います。AED はやるとかやらないとか、押すとか押さないとかじゃなくて、自分の場合、たまたま AED が全部判断して教えてくれることを知っていたから、とりあえず貼ればいいんだと思って。ただ AED の「ピンピン」という音が心臓マッサージのリズムだっていうのはあとから聞きました。それ知っていたらもうちょっとできたかもしれません。

父 あと以前、自分を助けてくれた医者は、そのとき人工呼吸は行わずに心臓マッサージだけやったようでした。それで自分を助けることができたので、「そのことを学会で発表していいか」と聞かれたのを覚えていました。今回も人工呼吸はいいからとにかく押そうと思って。それも良かったのかもしれませんが。

M それも大事なことです。例外もありますが、よほど自信がある人以外は中途半端ならやらない方がいいくらいだと自分は思っています。とにかく救急隊が到着するまで胸骨圧迫と AED に集中することです。

母 ハートのクッションで音が鳴って、人体模型の絵が描いてあって、置いて練習するキットがあるんですね。これすごくいいなと思ったんですね。

父 自分は学校で働いていますけど、これ学校でやった方がよいね。それと一家に一台ほしいね。

長女 やりたーい！



※あっぱくんライトは、倒れた人の状況確認、AEDパッドの貼り付け方法、胸骨圧迫といった全ての流れを体験できるトレーニングキットです。



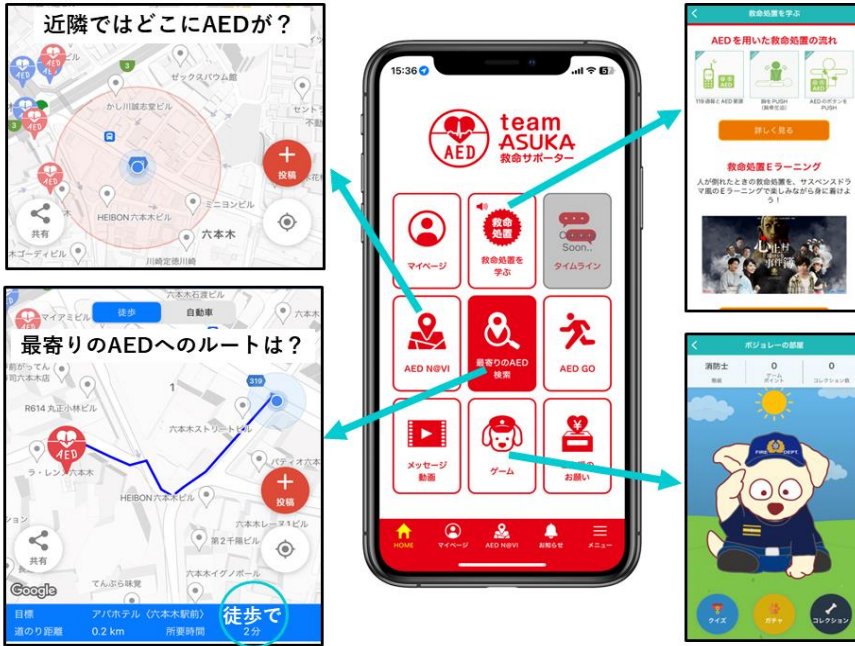


■救命サポーター「team ASUKA」



救命への想いをつなぎ、いのちを救う。誰もが AED を使える日のために救命サポータープロジェクト「team ASUKA」は始動しました。

このプロジェクトにおいて、2022 年 9 月、スマートフォンアプリ『救命サポーター「team ASUKA」』をリリースしました。救命サポーターアプリでは、いざという時の救命行動に繋げることを支援します。いますぐサポーター登録をして、救命の輪を広げましょう！



◀ワンボタンで最寄りの AED までのルート検索をする機能や、地図上で AED の設置情報を閲覧・登録・更新できる AED マップ「AED N@VI」、救命処置を学べるコンテンツなどを搭載しています。

▼アプリダウンロードは QR コード、または下記 URL から

https://aed-navi.jp/html/aed_navi/store.html



▼プロジェクトサイト

<https://aed-zaidan.jp/project/>



■オンライン AED 講習会

日本 AED 財団では、毎月無料のオンライン AED 講習会(Zoom 利用)を開催しています。AED の使い方、心肺蘇生のやり方だけではなく、簡単なストレッチなど、軽く体を動かす時間も組み合わせた講習です。お気軽にご参加ください。

▼詳細・お申込みはこちらから

<https://bit.ly/3Saaf2V>

